


遠賀川の両生類・は虫類・ほ乳類・昆虫類

遠賀川水系には、現在、イモリやヌマガエルなどの両生類が10種類、カナヘビやシマヘビなどは虫類が9種類、ハツカネズミやタヌキなどの哺乳類が17種類およびシオカラトンボやベニシジミなどの昆虫類が1,328種類確認されています。おもな両生類・は虫類・哺乳類・昆虫類について、分布を示しています。

凡 例	
保 存	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」の国内希少野生動植物種
国 R L	「環境省報道発表資料 鳥類、爬虫類、両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて」(環境省、平成18年)の掲載種
	「環境省報道発表資料 哺乳類、汽水・淡水魚類、昆虫類、貝類、植物および植物IIのレッドリストの見直しについて」(環境省、平成19年)の掲載種
県 RDB	「福岡県の希少野生生物-福岡県レッドデータブック2001-」(福岡県、平成13年)の掲載種
国 R L・県 RDB の絶滅危惧種カテゴリー	
危 惧	絶滅危惧 (CR+EN+VU)
危 惧 I	絶滅危惧 I 類 (CR+EN)
危 惧 IA	絶滅危惧 IA 類 (CR)
危 惧 IB	絶滅危惧 IB 類 (EN)
危 惧 II	絶滅危惧 II 類 (VU)
準 危 惧	準絶滅危惧 (NT)
D D	情報不足 (DD)
個 体 群	絶滅のおそれのある地域個体群 (LP)

貴重なほ乳類	貴重な昆虫類	貴重な昆虫類
		
カヤネズミ(ネズミ科) 県RDB:危惧 河川敷や堤防の法面、水田などにすんでいます。 九州では5~6月と9~12月の年2回、オギやススキなどの葉を巧みに編み、球形の巣を作り、その中で繁殖します。 遠賀川では河川敷に広くすんでいます。	コムラサキ(タテハチョウ科) 県RDB:危惧II ヤナギ類の生育する河畔によく見られます。 幼虫はヤナギ類の葉を食べ、成虫はクヌギやコナラなどの樹液を吸います。 遠賀川と彦山川で確認されています。	アオヘリホソゴミムシ(オサムシ科) 県RDB:準危惧 河川流域や溜め池の周辺、休耕田や湿地などで見られます。 幼虫はクヌギやコナラなどの樹液を吸います。 遠賀川と彦山川で確認されています。



トウキョウヒメハシヨウ(ハシヨウ科)
九州では、比較的めずらしいハシヨウです。夏に砂地などで見られ、近づくとすぐに飛び立ちます。

イタチ(イタチ科)
平地〜山麓部にかけて広くすんでおり、近年では市街地でも時おり見られます。

イタチ(ほ)

ツキアカリハシヨウ(ハシヨウ科)

イタチ(ほ)

オンプバッタ(昆)

ヌマガエル(両)

コウベモグラ(ほ)

ツチガエル(両)

シウカウハツタ(昆)

ヌマガエル(両)

マムシ(は)

ハツカネズミ(ほ)

ウシガエル(アカガエル科)
超大型のカエルで、主に平地の水田や池沼にすみ、重量感のある独特の声で鳴きます。後足の肉が食べられるため、食用ガエルとも言われています。

ウシガエル(両)

カヤネズミ(ネズミ科)
ネズミ類の中で最も小さい種類です。平地のススキなどのイネ科の植物に、球形の巣をつくり繁殖します。

カヤネズミ(ほ)

アマガエル(両)

ハツカネズミ(ほ)

キロカワカゲロウ(カワカゲロウ科)
春〜秋に見られ、幼虫は川や湖沼の砂や泥の多い底にすんでいます。夜間に、灯火によく飛んできます。

タヌキ(ほ)

ツチガエル(両)

アカハライモリ(両)

テン(ほ)

カナヘビ(は)

マムシ(は)

ベニシジミ(シジミチョウ科)
平地〜低山地の陽当たりのよい堤防や畑の周辺でよく見られます。タンポポやヒメジョウオン等の花のミツを吸います。

ベニシジミ(昆)

アマガエル(両)

カヤネズミ(ほ)

ウシガエル(両)

ハツカネズミ(ほ)

アカハライモリ(イモリ科)
平地〜山地の水田、池、流れのゆるい川などにすんでいます。腹側が鮮やかな赤色をしているので、アカハライモリと呼ばれています。

テン(イタチ科)
主として山地にすんでおり、樹木があれば人家周辺でも見られます。

ヤマカガシ(ヘビ科)
平地〜低山地に広くすんでおり、もっともよく見られるヘビですが、最近になって毒ヘビであることがわかりました。

イタチ(ほ)

コバネイゴ(昆)

カヤネズミ(ほ)

コウベモグラ(ほ)

ウシガエル(両)

カナヘビ(は)

シオカラトンボ(昆)

ヌマガエル(両)

ウシガエル(両)

カヤネズミ(ほ)

ハツカネズミ(ほ)

マムシ(は)

タヌキ(イヌ科)
平野〜山地に広くすんでおり、最近では市街地でもたまに見られます。ため糞をすることで有名です。

カナヘビ(カナヘビ科)
平野〜低山地の草地や堤防等にすんでいます。トカゲ科の(ニホン)トカゲとよく間違えられますが、カナヘビの方がスリムで、表面が茶褐色のがさついたウロコでおおわれています。

アマガエル(両)

イタチ(ほ)

マムシ(クサリヘビ科)
平地〜山地に広くすんでおり、毒ヘビとしてよく知られています。からだの表面の大きなはん紋・三角形の頭などからも、こわいヘビに見えます。

ウシガエル(両)

セアカヒラタゴミムシ(オサムシ科)
体の背面が黒色のものから、一部赤色が混じるものまで変化が大きい昆虫です。河原や畑地等の草地でよく見られます。

タヌキ(ほ)

セアカヒラタゴミムシ(昆)

ツチガエル(両)

ヌマガエル(両)

ウシガエル(両)

ハツカネズミ(ネズミ科)
主として平地にすむネズミで、私たちに最もなじみが深い。米蔵などにもすみ、米や昆虫類を食べます。

アカネズミ(ほ)

シマヘビ(両)

イタチ(ほ)

ウシガエル(両)